

## サブプロ (b) 官民連携による超高密度地震動観測データの収集・整備からの報告

### 2) MeSO-net 観測点における地表地震記録の推定

先名 重樹 (防災科学技術研究所 首都圏レジリエンス研究センター 主幹研究員)



先名氏からは、「MeSO-net 観測点における地表地震記録の推定」について報告がありました。先名氏は、「MeSO-net 観測点の地震計は地中 20mにあるが、そのデータを活用して私たちが生活する地表の地震記録を推定するための研究・作業を行っている」としています。

項目は3つあります。1つ目は、MeSO-net 観測点における地表地震記録の取得と、地中から地表まで増幅するので、その増幅特性の推定です。これは地震記録として取得していますが、その中には揺れやすさの硬さ・軟らかさを表す S 波速度というパラメータがあります。このパラメータを推定するために、2つ目に、地震計地点で微動アレイ観測を行います。1、2 の記録から、3つ目に S 波速度構造の精度の検証と地表地震記録の推定のため、S 波速度構造を決めて増幅特性を確定させます。そして確定させたものをマルチインテグレーションシステムに実装し、地表記録として出していきます。

先名氏は、「現在は、微動アレイ探査 106 地点で S 波速度構造解析が終わっている。地震観測は 12 地点でデータの整理と基礎的解析が終了しているが、3 月末まで残りの 6 地点を測っているので、それを整理して今年度の成果にしたいと考

えている。S波速度構造を微動アレイで求めたので、今年度中には、理論計算、一次元重複反射等を計算し、地中・地表の増幅特性をモデル化したいと考えている。最終的には、そのスペクトル増幅率モデルによる地表地震波形の生成を行って、インテグレーションシステムに搭載していきたい」と述べています。

